

審査結果報告書

平成 25 年 9 月 3 日

主査	氏名	岡本浩嗣	印
副査	氏名	岩村正嗣	印
副査	氏名	井上傳介	印
副査	氏名	宮下俊之	印

1. 申請者氏名 : 友保 貴博

2. 論文テーマ : Surgical Strategy for Severe Aortic Hypoplasia and Aortic Stenosis With Ventricular Septal Defect and Normal Left Ventricle
(左室低形成を伴わない重症左室流出路狭窄、心室中隔欠損症に対する外科的治療戦略)

3. 論文審査結果 :

申請者は左室容積及び僧帽弁輪径がほぼ正常の重症左室流出路狭窄症の疾患群（心室中隔欠損を伴う）に対する治療方針として、新たな段階的手術を行っており、その指標と経過の臨床的評価を研究目的として行なった。第1段階は Norwood Stage I 型手術を行なう。次に第2段階として心室造影を行ない、右室容積の測定により、右室拡張末期容積が正常の 80%以上であれば、2心室修復としての Rastelli 手術、80%以下であれば単心室修復としての Glenn、Fontan 手術を行なうものである。本指標に基づく治療成績と経過について臨床的に検討を加えた結果、平均観察期間がほぼ 4 年間で、全例生存しており、まずは本治療戦略の臨床的妥当性が明らかになった。6例は2心室修復、1例は単心室修復がなされていた。経過中の BNP、CVP をもとにした解析では、右室拡張末期容積が 90%以上のものであれば経過中も全く臨床的に問題がないことが明らかにされた、80~90%の症例については右心負荷軽減策の必要性が示唆された。以上の研究論文を審査した結果、このような疾患群で右室拡張末期容積に着目した治療戦略の妥当性を初めて明らかにした優れた研究内容であり、学位論文にふさわしいと判断した。